

平成30年度 医学部海外短期留学報告会を開催しました

11月6日、大塚講堂（蔵本キャンパス）にて、「平成30年度医学部海外短期留学報告会」を開催しました。

本報告会は、海外の学術交流協定校へ留学した医学部の学生が研究成果を発表するとともに、海外で自ら体験したことを教員や学生に報告することにより、医学部のグローバル化に寄与し、ひいては本学の国際化を促進させることを目的として、平成23年度から毎年開催しています。

報告会は、丹黒章医学部長による英語での開会のご挨拶で始まり、発表者は、テキサス大学ヒューストン・ヘルスサイエンス・センター（米国）、ソウル国立大学（韓国）、モンゴル国立医科大学（モンゴル）、メトロポリア応用科学大学（フィンランド）の順で、英語で体験発表を行いました。

留学先での研究の成果に加えて、日本と留学先の国との文化の違い、外から日本を見ることの大切さ、留学で得たことや見つかった課題、英語によるコミュニケーション力をつけることの重要性等について貴重な体験が報告されました。医学科と保健学科の学生約170名と教職員が発表に熱心に耳を傾け、各発表後には、参加者との間で英語による活発な質疑応答がされました。最後に発表者を囲んで記念撮影を行い、報告会を終了しました。

【発表者】

テキサス大学ヒューストン・ヘルスサイエンス・センター：小林陽花（医学科4年）

ソウル国立大学：藪野淳也（医学科6年）

モンゴル国立医科大学：庄野千恵、十川和樹（医学科5年）

加藤佑実、堺 亜紀、岡崎摩利矢（医学科1年）

メトロポリア応用科学大学：横田真梨菜、一宮由佳（保健学科4年）

植野結衣、松浦日向子、藤江 華（保健学科3年）



発表者（前列）と丹黒医学部長（後列左から4人目）とともに記念撮影



発表と質疑応答の様子